

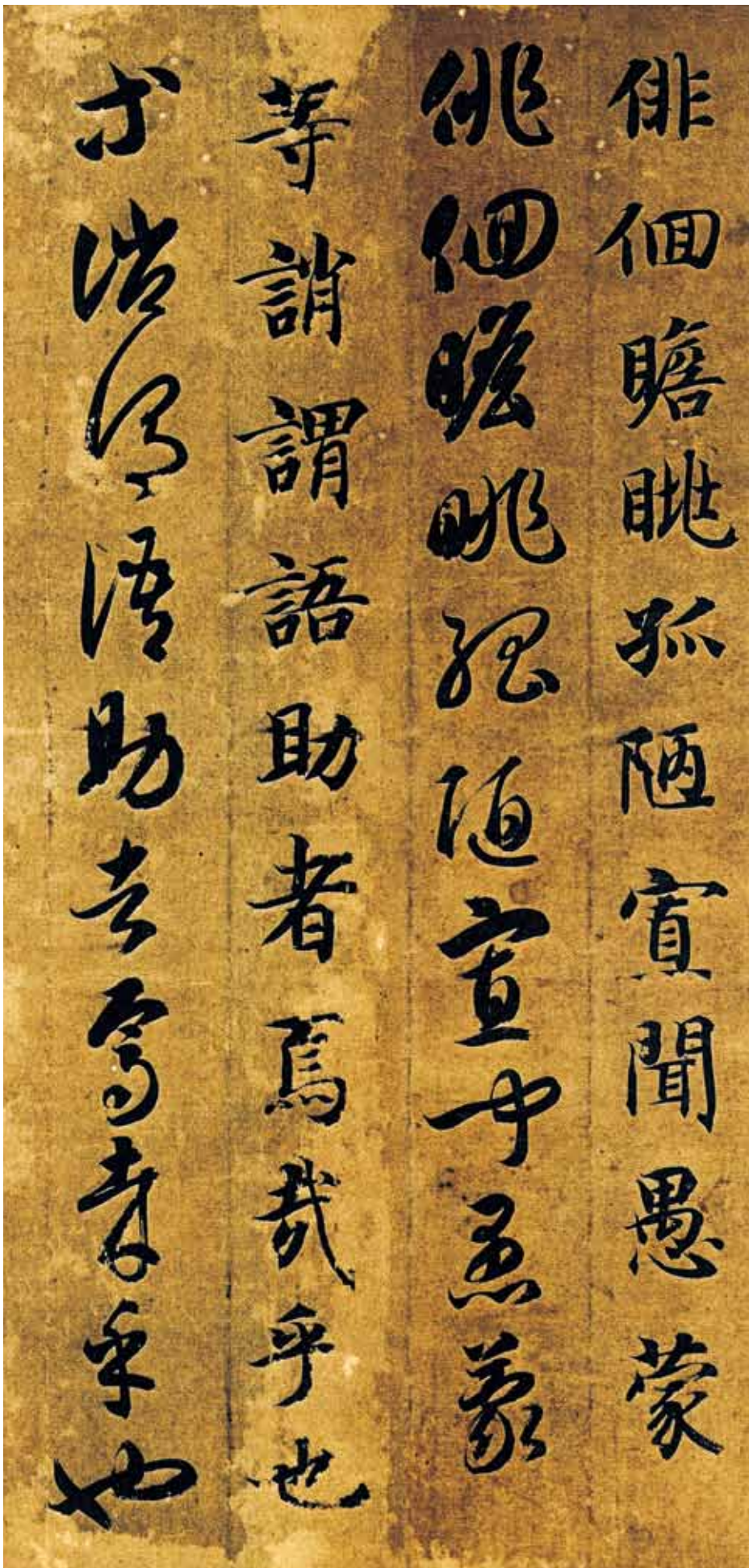
書道

No.483

令和2年 11月号

真草千字文(Ⅱ)

「焉」「哉」「乎」「也」は文末にある語ですが、あなたはこの四つの文字が千字文の最終文末にあることをどのように思いますか？



俳徊瞻眺。孤陋寡聞。愚蒙。俳徊瞻眺す。孤陋寡聞は、愚蒙と。等誚。謂語助者。焉哉乎也。等しく誚らる。語助と謂う者は、焉哉乎也なり。

具膳飡飯。適口充腸。飽飫

膳を具え飯を餐い、口に適い腸に充つ。飽けば(烹宰に)飫き、

具膳飡飯。適口充腸。飽飫
里膳飡飯。適口充腸。飽飫
享宰飫厭糟糠。親戚故舊
享宰飫厭糟糠。親戚故舊
老少異糧。妾御績紡。侍巾
老少異糧。妾御績紡。侍巾

享宰。飫厭糟糠。親戚故舊。老少異糧。妾御績紡。侍巾
飫えれば糟糠にも厭く。親戚故舊、老少は糧を異にす。妾御は績紡し、(帷房に)侍巾す。

帷房。紈扇員潔。銀燭瑋煌。晝眠夕寐。簾筍象床。絃歌
紈扇は円く潔く、銀燭は煌煌たり。晝は眠り夕は寐ぬ。簾筍と象床あり。絃歌

帷房紈扇員潔銀燭瑋煌
帷房紈扇員潔銀燭瑋煌
晝眠夕寐簾筍象床絃歌
晝眠夕寐簾筍象床絃歌
酒讌接杯舉觴矯手頓足
酒讌接杯舉觴矯手頓足
酒讌接杯舉觴矯手頓足

酒讌。接杯舉觴。矯手頓足。
酒讌し、杯を接え觴を挙ぐ。手を矯げ足を頓し、

悦豫且康。嫡後嗣續。祭祀悦豫して且つ康し。嫡後は嗣統し、祭祀

悦豫且康嫡後嗣續祭祀

收豫且康嫡後嗣續祭祀

蒸嘗稽顙再拜悚懼恐惶

蒸嘗稽顙再拜悚懼恐惶

踐牒簡要顧答審詳骸垢

樹標曾要顧答審詳骸垢

蒸嘗。稽顙再拜。悚懼恐惶。踐牒簡要。顧答審詳。骸垢

蒸嘗す。稽顙再拜し、悚懼恐惶す。踐牒は簡要にし、顧答は審詳にす。骸に垢つくときは

想浴。執熱願涼。驢騾憤特。駭躍超驤。誅斬賊盜。捕獲
 浴を想ひ、熱きを執るときは涼を願う。驢騾憤特、駭躍超驤す。賊盜を誅斬し、〔叛亡を〕捕獲す。

想浴執熱願涼驢騾憤特

扣以執熱以涼驢騾憤特

駭躍超驤誅斬賊盜捕獲

叛亡希射遼丸嵇琴阮嘯

叛亡希射遼丸嵇琴阮嘯

叛亡希射遼丸嵇琴阮嘯

叛亡。布射遼丸。嵇琴阮嘯。布の射、遼の丸、嵇の琴、阮の嘯。

恬筆倫紙。鈞巧任鈞。釋紛
恬の筆、倫の紙、鈞の巧、任の鈞。紛を釈き

恬筆倫紙鈞巧任鈞釋紛
恬筆倫紙鈞巧任鈞釋紛
利俗並皆佳妙毛施淑姿
利俗並皆佳妙毛施淑姿
工嘖研咲年矢每催羲暉
工嘖研咲年矢每催羲暉
工嘖研咲年矢每催羲暉

利俗。並皆佳妙。毛施淑姿。工嘖研咲。年矢每催。羲暉
俗を利し、並に皆な佳妙なり。毛施淑姿あり、工みに嘖み研かに咲う。年矢毎に催り、嘖暉

朗曜。旋璣懸幹。晦魄環照。指薪脩祐。永綏吉劭。矩步
朗曜たり。旋璣懸幹して、晦魄環照す。薪を指して祐いを脩むるときは、永く綏らかに吉劭なり。矩歩

朗曜旋璣懸幹晦魄環照
為曜於珠璣并晦魄環照
指薪脩祐永綏吉劭矩步
指薪脩祐永綏吉劭矩步
引領俯仰廊廟東帶矜莊
引領俯仰廊廟東帶矜莊

引領。俯仰廊廟。東帶矜莊。

引領して、廊廟に俯仰す。東帶は矜莊にして、

千字文についてⅡ

千字文の内容を分類すると次のようになりました。数の多い順に並び変えてみました。

1	人間の生き方や教育、学習など	110個	(44%)
2	政治の上での活動と変遷	42個	(16.8%)
3	中国の都などの解説と紹介	25個	(10%)
4	自然状況における発見	19個	(7.06%)
5	過去の王などの活動	8個	(3.2%)
6	風景	7個	(2.8%)
7	自然現象について	7個	(2.8%)
8	過去の生活や暮らしの様式	6個	(2.4%)
9	過去の生活習慣	5個	(2%)
10	生き物に対する活動状況	4個	(1.6%)
11	人間が作りだしたものと発明したもの	4個	(1.6%)
12	人間の穀物などに対する取り組み	3個	(1.2%)
13	内容における説明	3個	(1.2%)
14	歴史に対する事項	3個	(1.2%)
15	千字文の制作において残った文字の扱い	2個	(0.8%)
16	軍事的な戦略など	2個	(0.8%)

故に人間の生き方や教育、学習などが最も多くなっていることが理解出来ました。

恬筆倫紙（恬の筆、倫の紙）では意味がわかりませんね。恬は蒙恬のこと。倫は蔡倫のことです。「蒙恬は筆をつくり、蔡倫は紙をつくった。」という理解出来ます。中国語の表現は意外と短いのですが、この千字文の四文字は中国語の中においても文章としてもごく短かいことがよくわかります。

孤陋寡聞。愚蒙等誚（孤陋寡聞は、愚蒙と等しく誚らる）は「独学で師友より益を得ることがなければ見識に乏しく、無知文盲と同様に非難されてしまう。」となります。しかし次の、最後の四文字は氣がかりです。

謂語助者。焉哉乎也（語助と謂う者は、焉哉乎也なり）は「語の助辞と称するものは、焉、哉、乎、也などの字がそれである。」とあり、単なる最終語ではあるが、この各四文字は文章の終りに来る文字です。殷鉄石はいづれかの文章の終りに用いるだろうと、この四文字を選択したと思います。周興嗣は用いる処がなく最後に残ったこの四文字を全体の文末に持ち越し、この表現になったのではないのでしょうか？

（大琳）



昨日と今日
そして
明日ずっとずっと
つながって
つながって
生きる道は
つながって
ななこの詩

Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					